

社長はメインバンクと思っているのに、当の銀行員は全くそう思っていない!?

こういった社長の銀行に対する片思いというのは、実は、至るところで見受けられます。

なぜこういうことが起きてしまうのでしょうか?

その原因は、銀行というものがどういうものか分かっていない社長側にあることが多いものです。

そこで、今回は皆様の銀行に対する想いが一方的な片思いになっていないかどうか、

以下の点をご確認いただき、今後の銀行取引のご参考にさせていただきたいと思います。

・**そもそもの借入額がその金融機関にとって少なすぎませんか?**

→メガバンクや大手地方銀行から2千万円とか3千万円の融資を受けていても、

彼らにとっては少額過ぎて重要な得意先とはなりません。

相手の規模に合った金額を借りないとその他大勢の中の一社と位置付けられてしまいます。

・**借入残高は一番だが、ほぼ保証協会付き融資になっていませんか?**

→保証協会付きであれば、その会社が潰れても保証協会が代わりに返済してくれますので、

銀行のダメージは少なく済みます。銀行員はまず自分たちの保身を考える人が多いですから、

もし潰れてしまっても自分たちが困らない相手であれば、

大事に思わなくなるのは当然かもしれません。

・**プロパー融資だけで、保証協会付きは他行に利用させていませんか?**

→自分たちにだけリスクをとらせて、ライバルの銀行にはリスクをとらせない相手を大事に

思ってくれることはありません。保証協会付き融資は銀行員にとってうまみのある融資です。

うまみも与えませんと良いお取引は叶いません。

・**決済用口座として利用していますか?**

→意外とこれが一番大事だったりします。決済用口座とは、得意先からの入金や

仕入先・社員への支払いをしていて、お金が常に動いている口座をいいます。

銀行員は当然、自分のところの口座の動きを見ることができます。

お金の流れを常に見られるということは情報量も格段に増え、よりその企業を深く知ること

につながります。メインバンクとは一番当社のことを深く知ってくれている銀行のことを言います。

良くわからない相手は大切にはしません。

いかがでしょうか?

以上が全てではないのですが、こういった配慮がしっかりできている社長を

銀行員は好きになります。

銀行の都合、銀行の事情を理解している社長の方が圧倒的に少ないですから、

少し彼らの事情を理解してあげるだけで、キラッと光る会社になるかもしれません。